

第 6 回 宝塚市教育環境審議会 議事録(概要)

日時：令和 4 年(2022)年 5 月 6 日(金) 13:30～14:40

場所：宝塚市役所 3 階 特別会議室

出席委員：伊藤委員、川上委員、藤本委員、岡田委員、長澤委員、福住委員、田村委員、橋本委員、田上委員、裏地委員 ※敬称略、順不同

欠席委員：佐藤委員

傍聴希望者：なし

1 開会

事務局 <開会のあいさつ>

<委員交代による委員の紹介等>

<出席 10 名、欠席 1 名により会議成立。傍聴希望者は無し>

2 議事

会長 それでは議事に入る。答申案について事務局から説明をお願いする。

事務局 <資料 1 に基づき説明>

会長 答申案の流れを良くするため、2 と 3 を入れ替えている。そのことをご留意いただいた上で、ご意見、ご質問をお願いする。

答申案 3 ページ「(3)小中連携・小中一貫教育で期待される効果」の最後の方、「児童生徒の社会性育成を目指す教育活動が推進される。」の部分、みだしでは「…期待される効果」とあるので、文末を「期待される。」とするのが良い。

5 ページ (2) の最後のあたりで、「このように、小中連携や通学区域の「整合」は、…」とあるが、小中連携のことは記載されておらず、書き方が難しいが、通学区域の「不整合」、あるいは「複雑さ」という言葉に変え、「…児童生徒の精神面に」のあとに「ネガティブな」という言葉を入れてはどうか。

8 ページ「5 附帯意見」の「(2) 今後の取組」4 行目で基本方針について書いてあるが、その前段で推進体制をつくるのが大事と書いているため、「…推進体制も含めた基本方針を策定し…」とした方がわかりやすい。

「5 附帯意見」の「(1)家庭、地域との連携と協働の推進」で、あまり地域との話し合いを丁寧にし過ぎると、市が思っていることが一步も前に進まない可能性について少し危惧されるが、実態がわかっていないため、書き方はおまかせする。

事務局 いただいた意見を答申案に反映させていただく。

皆さまにお考えいただいている間に、本市で取組を進めているコミュニティ・スクールについて説明する。

事務局 現在、宝塚市版コミュニティ・スクールとして市内 20 の小中学校が参加しているが、今年度、学校方針の検討や運営、人材活用などに保護者や地域からご意見をいただき、国基準のコミュニティ・スクールを全校で実施する予定である。今後、保護者、地域の方々にも説明していく予定である。

会長 コミュニティ・スクールは学校運営に保護者や地域の人たちが入り、学校づくりを進めていくもので、全国的に取組が進んでいる。

委員 保護者や地域の方々に学校運営協議会の委員をお願いし、学校運営方針について承認いただいたり、教育活動に様々な協力をいただき、気づきなどをフィードバックしても

らう。学校運営協議会と協力活動をあわせたものである。

コミュニティ・スクールについて答申に入れなくて良いか。コミュニティ・スクールにおいても、校区の整合は大事な要素である。学校で地域人材を探したり活用したりする際に、校区が整理されているのが望ましい。中学校区単位で校区が整理できていると、地域人材について校区内の小中学校で情報共有することで、地域人材の活用がスムーズになる。答申で校区の整合について書く際の良い材料ではある。

宝塚市で小中一貫教育に取り組むに当たって、一番大事にしていることが答申で伝わると良い。地域との連携や小中一貫したカリキュラムなど、小中一貫教育の制度導入の振り返りをする際、どこをポイントに評価するかに通じてくる。

事務局 国が示すコミュニティ・スクールの確立に向けて取り組み中であり、答申で書きすぎると動きを制約してしまう可能性があるため、「市民との協働」という言葉に置き換えて記載している。

市が大事にしていることを示すのは大切である。答申後に策定する基本方針で盛り込む想定をしていた。市として大事にしているところにも少し触れた上で、小中一貫教育の取組を進めてほしいという内容になるよう検討する。

委員 コミュニティ・スクールの導入について、国が示すからではなく、地域の事情をよく知る市が、事情を踏まえて十分考える必要がある。市は分野ごとの施策の都合で様々な協議会をつくるが、地域は同じ人が参画している可能性が高い。今後、地域と継続して友好的関係性を持つためにはどうしたら良いのか考えないといけない。市長部局の協働に関する部局が小学校区単位での取組を進めているため、その部局と連携して考えないといけない。学校運営協議会をつくる際に、教育分野から地域連携を考えるのであれば、地域における人づくりにつながるシナリオをもつべきである。例えば、教育分野で参加・活動したいという新たな人材を発掘し、地域づくりにもつながるような工夫が必要である。学校運営協議会は中学校区単位でつくるようになるのか。

委員 政策を進める中で、中学校区が選択肢に入ってきた。今までは小学校でも中学校でもつくりましたよだったが、同じ地域の小中学校で別々の運営協議会というのも効率が悪いので、中学校区くらいのまとまり感だと地域もやりやすい。コミュニティ・スクールにおける学校外のコーディネーターについても、同じ地域の小中学校でそれぞれコーディネーターがいるより、中学校区単位で1人とした方が良いと考える。

委員 先ほど話が出たように地域との協働、連携を打ち出し過ぎると物事が進まなくなることがあるかもしれない。地域と市が対等な関係で議論して物事が進むのが良い。ロードマップも、統一的な期間を掲げるのは無理だと思うが、一方で計画的に進めるということも大切である。市の考えや地域の意見、それぞれの事情など様々ある中で、年限をきって、例えばうまくいかなかった時の課題を示すことも協働の一端である。協働の話は書き方が難しいが、市と地域が対等であるという関係性を大切にすること、学校も地域も良くなるというシナリオをもつことなどを考えていただけたら良い。

会長 今のお二人の話聞いて、推進体制のところ、時期を示すのは難しいが、評価体制も重要であることと、推進体制をつくる時に保護者や地域の人入り、対等の関係でということ答申に含めてはどうか

事務局 整理、調整して、次回会議でお示ししたい。

委員 中山台地域で統合校が開校したが、小中一貫校を見据えているのか。小中一貫校のモデル校にという計画があるのであれば、例えば、課題が多く出てきた場合に引き返す、

やめるという考えはあるか。

事務局 中山台地域の学校統合では、統合を計画するに当たって、地域から統合の先には小中一貫校を目指してほしいとの意見書をいただいている。西谷地域については、適正規模化からは除外して、特色ある学校づくりの選択肢として小中一貫教育も含めて検討するとしている。両地域では今後、小中一貫教育の検討が必要だと認識している。その経過については、この審議会で随時報告するよう考えている。

委員 西谷地域での小中一貫教育について、西谷小学校や中学校の保護者から話を聞くことがある。物事を進める際に様々な意見を聞くと、進めるのが難しくなってしまう側面があることも自分の経験の中で実感しているが、応援してくれる人もいる。西谷地域では、地域の意見や連携環境はどのような状況か。

事務局 西谷地域に関しては、児童数が減少する中で、小中学校が隣接している環境の活用など色々な可能性があるが、地域から要望書の提出等は受けていない。現時点で具体的に小中一貫教育をとということでは進んでいない。

委員 西谷地域は変化に対して慎重に対応される地域だと思うが、小中一貫教育を推進する際にどのように話し合いをされるのか。西谷地域はシニアの方が多いが、ミドル世代の小中学校の児童生徒の保護者はセンシティブな意見を抱えている方が多い。小中一貫教育に対して前向きにとらえてほしいと思っている。具体的に西谷地域で、何年間で取り組むというものはないか。

委員 西谷地域で小中一貫教育は、あまり反対なくできるのではないかと思う。一番反対されるのは西谷小学校と中学校を閉校すること。一方で、部活も少ないので、スクールバスで山手台の学校にという意見も聞く。現状としては、意見を聞きながら検討して、西谷小中学校で1つのコミュニティ・スクールをつくった。PTAも小中学校で1つになった。また、理科の実験などで中学校の先生が小学校で教える取組も行っているが、教員免許の制度的な関係で小学校の先生は中学校で教えることはできないことなど、課題もある。そのあたりの制度的な課題をクリアすれば、小中一貫教育はできるのではないか。

委員 西谷地域は少人数で自然に囲まれていて、例えば中央図書館と連携するなど、とても良い地域だと思っているが、不安を抱える保護者の声も聞く。

事務局 今年度から複式学級がスタートしたが、それも関係していると思う。先ほど話があったが、色々な意見がある。今後、どのように舵を切るかということになるが、今のところは具体的に何かを進めているということはない。

委員 余談になるが、三田市の高平地区では、類似した中山間地域だが、最近児童が増えていくと聞く。Iターンなど、本市とは違う移住促進施策を行っているようである。

委員 答申自体の話ではないが、取組の評価など、その後どうなっていくのかが気になる。モデルケースの取組を進める中で、審議会などの場を持つことになるのか。

事務局 この審議会は、諮問して答申をいただいて終わりではなく、頻繁ではないが、継続して会議を開催して進捗を確認しながら、その都度ご意見をいただくような形で残すこともできる。差支えなければ、委員の多少の交代はあるかもしれないが、途中経過も含めてご意見をいただくような場として、評価も含めて報告して確認いただくような会議になればと思っている。

会長 この会議は今後、取組の評価機能を持ちうるということか。

事務局 その通りである。今後の各論の、例えば地域ごとの計画においても、臨時委員として該当する地域や保護者の方に参加いただき、審議することも可能である。今後、色んな

角度から関わっていただければと思っている。

会長 他になければ、議題に関しての審議を終了する。

今いただいたご意見について、答申案への反映や文言整理など、次回会議までにしていただきたい。よろしくお願いします。

その他について、事務局からお願いします。

事務局 答申案について、「目次」や「はじめに」「おわりに」の部分は伊藤会長と事務局で調整して作成し、次回会議でお示ししたいと考えている。

会長 「はじめに」や「おわりに」に記載してほしい内容などがあれば、事務局に早めに連絡をお願いします。

それでは、本日の会議を閉会する。